

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【浦和大里小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	タブレット学習や漢字ドリル・計算ドリルを活用して基礎的・基本的な知識・技能の定着を継続して図っていく。児童の学習状況を把握し、児童自身が主体的・計画的に学習できるように支援する。年度初めに全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果の分析を全教職員と共通理解し、各学年の児童の課題を明確にして指導をしていく。また日々の授業を大切に、教材研究を充実させることで「分かる授業・楽しい授業」を実践していく。
思考・判断・表現	協働的な学びの時間を確実に確保し、児童の思考力・判断力・表現力の向上を継続して図っていく。学校課題研究を中心に、各教科において児童の思考力・判断力・表現力を高める授業実践、教材研究を引き続き行う。また実践したICT機器の活用等の手立ても学校全体で共有しながら、自分の考えを人に分かりやすく伝えることを意識した学習活動を実践していく。
主体的に学習に取り組む態度	児童が主体的に学びたいと思える授業づくりを継続していく。課題設定からまとめ・振り返りまで、児童の思考の流れを互いに授業を見合う機会を定期的に設定し、授業について意見を交換することで各教員の指導力の向上を図る。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の各学年各教科「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より2pt以上向上させる。	⇒ タブレット学習や漢字ドリル・計算ドリルを活用して基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。児童の学習状況を把握し、児童自身が主体的・計画的に学習できるように支援する。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の各学年各教科「思考・判断・表現」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より2pt以上向上させる。	⇒ 協働的な学びの時間を確実に確保し、児童の思考力・判断力・表現力の向上を図る。教員・児童ともにICT機器を効果的に活用し、相手に伝えることを意識したスキルを身に付けることができるように指導する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 児童にとって必要感のある課題を設定し、解決することが楽しいと思うことができる授業を行う。課題や学び方を自分で選択する機会を増やし、学びを調整する力を高める。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の各学年各教科「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より2pt以上向上したのは、5学年国語+2.4pt、4年算数+5.0ptであった。さいたま市全体の平均が昨年度より下がったことを考慮すると概ね達成したと考える。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の各学年各教科「思考・判断・表現」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より2pt以上向上したのは、3年国語+2.7pt、4年国語+6.9ptであった。さいたま市全体の平均が昨年度より下がったことを考慮すると概ね達成したと考える。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が5年89.5%、6年87.2%であった。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	全国平均は共に上回っており、基本的な知識・技能については身に付いている児童が多い。国語では、日常的によく使われる敬語についての理解に課題が見られた。算数では、正三角形の意味や性質についての理解に課題が見られた。
思考・判断・表現	全国平均は共に上回っており、思考力・判断力・表現力はおおむね身に付いている。国語では、図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについて課題が見られた。算数では、自分が判断した理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られた。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査の「課題解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいましたか」において、全国平均を上回る90.6%であった。R4年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較し、肯定的評価が-3.7ptであったため、今後の授業改善が必要である。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	国語、算数ともに結果は良好であった。国語に関しては「言葉の特徴や使い方に係る事項」について課題がみられる。既習の漢字を文の中で正しく使ったり、主語と述語の関係を正しく捉えたりすることを身に付ける必要がある。算数に関しては、小数の減法に課題がみられた。位を揃えることや繰り下がりの手順などを繰り返し丁寧に指導していく必要がある。	小4	国語、算数ともに結果に課題がみられた。国語に関しては「我が国の言語文化に関する事項」について課題がみられる。筆の運び方や穂先の通るところを意識させながら丁寧に指導していく必要がある。算数に関しては、3位数×3位数の乗法と無回答率の高さに課題がみられる。四則計算は繰り返し丁寧に指導し、確実に身に付けさせる必要がある。
小5	国語と算数の結果は良好であったが、社会と理科に課題が見られた。社会に関しては、資料から特色や変化を読み取り、考察することに課題がみられる。資料の見方、考え方について丁寧に指導していく必要がある。理科に関しては、実験を安全に正しく行うための知識に課題が見られた。丁寧に指導し、確実に理解させる必要がある。	小6	国語の結果は良好であった。社会に関しては「歴史と人々の生活」において課題がみられた。資料を手掛かりに様々な点に着目し考察する活動を適宜取り入れ、丁寧に指導していく必要がある。理科に関しては、実験を安全に正しく行うための知識に課題が見られた。丁寧に指導し、確実に理解させる必要がある。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし